

【中期計画変更についての意見(今回変更箇所＝大学地域創造学部設置及び短期大学部幼児教育学科名称変更関係)】

No.	委員名	意見・質問	該当に○				法人対応・質問への回答
			今回の中期計画 変更にあたって 反映	令和8年度 計画に反映	次期中期計 画への反映 を検討	その他	
1		2ページの短大の幼児教育学科ですが、学科名だけ変更になり、内容は同じと考えてよいでしょうか。				○	そのとおりです。
2		こども地域学科への名称変更ですが、理由の説明がありません。				○	別添「名称変更の概要」のとおりです。
3		地域創造学部の指標に、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の、例えばリタラシーレベルの認定、を加えるのはどうでしょうか。				○	「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度/リテラシーレベル」については、基礎的な内容であることから、地域創造学部の中期計画への記載は不要であると考えています。地域創造学部については「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度/応用基礎レベル」の実施を予定しています。応用基礎レベルについて記載します。なお同認定制度への申請には、プログラムを1年間実施した実績が必要となるため、要件を満たした段階で申請を行う予定です。
4		3ページの経済学部と4ページの地域創造学部の【指標】で、旭川市内及び近隣庁への就職率を目標として掲げなくてよいのですか。(保健福祉学部は記載あり)。特に地域創造学部は、地域との連携・協働を行うことから、地域企業への就職あっせんは必要だと考えます。				○	現中期計画の終期である令和10年度は、地域創造学部の卒業生がまだ出ていないことから、適切な指標について次期中期計画において設定する予定です。
5		4ページ (2)学生及び卒業生への支援に関する目標を達成するための措置<地域創造学部地域創造学科> 設立後間もない時期で難しいかもしれませんが、他学部学科のように【指標】を設定することは難しいでしょうか。				○	現中期計画の終期である令和10年度は、地域創造学部の卒業生がまだ出ていないことから、適切な指標について次期中期計画において設定する予定です。
6		4ページ<地域創造学部地域創造学科>の1行目、キャリア開発やインターンシップを通じて「体系的なキャリア教育」を行うとのことですが、体系的とはどのような内容でしょうか？				○	1年次には、「アントレプレナーシップ」を選択科目として配置し、経営者による講話等を通じて、自身の将来について考える機会を設けています。 2年次には、前期に「キャリア開発Ⅰ」、後期に「キャリア開発Ⅱ」を必修科目として配置しています。「キャリア開発Ⅰ」では、「キャリアに関する基礎的な理解」および「自己分析」を重視し、キャリアについて考えるための基盤を築きます。「キャリア開発Ⅱ」では、「実践的なスキルの習得」と「具体的な計画作成」を目標とし、就職および将来のキャリア形成に向けた準備を行うこととしています。 また、「キャリア開発Ⅰ」の履修後には、選択科目として「地域インターンシップ」を配置し、5日間以上の実習を通じて地域課題への理解を深めるとともに、専門的知識やスキルを実践的に活用する力を修得することとしています。 これらの講義および実習を通じて、学生が自らのキャリア・デザインを主体的に描けるよう支援していきます。
7		5ページ<地域創造学部>2)の「主体的に挑戦する意欲」とは？このような文言を使用すると、評価する時点で、基準が分かりにくいと思います。				○	ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)においては、「主体性」「協働性」「知識・理解」「思考力・判断力」「表現力」の5つの観点を設定しており、科目ごとにおいてこれら5つの観点に基づいた評価を行うこととしています。 このうち「主体性」については、「自ら現状を客観的に分析し、問題を発見した上で、その原因を探求し、解決に向けて主体的に取り組むことができる」と定義しています。 この観点对応する科目を修得することにより「主体性」を身に付けたものとして評価することになります。
8		5ページ、地域創造学部の項目3)に関し、課題解決型(PBL)授業において、課題発見能力の育成は含まれないのでしょうか。含まれるのであれば、これについても明記したほうが良いと思います。意義のある課題を発見する能力は、PBL授業ではごくまれるべき重要な能力の一つであると考えられています。				○	文言として明示的な記載はしていませんが、PBLにおいては、課題解決の思考プロセスとして「デザイン思考」を取り入れることとしています。このプロセスには「共感」や「問題定義」が含まれていることから、ご意見のとおり、課題を見つけ出す力を育成する取組も含んでいます。

【その他についての意見】

No.	意見・質問	今回の中期計画 変更にあたって 反映	令和8年度 計画に反映	次期中期計 画への反映 を検討	その他	法人対応・質問への回答
9	3ページ(2) <学部・短期大学部共通> 5) 「広く周知する。」…どのように?				○	下記的手段で周知を行っています。 高校生向け：パンフレット・オープンキャンパスでちらし配布予定 新生：オリエンテーション・修学支援新制度説明会・学生ポータルサイト・メールでの周知 在学生：学生ポータルサイト・メール
10	3ページ(2) <学部・短期大学部共通> 6) 「支援体制を構築する。」…具体的に				○	学生相談室・ゼミや担当教員の面談など、支援の窓口を複数とし、相談が受けやすい体制としています。合理的配慮についてはルールを定め学生が配慮を申し出しやすいようにしています。
11	3ページ(2) <学部・短期大学部共通> 7) 「幅広い支援体制」…とはどのような体制でしょうか			○		後援会奨学金制度・旭川市立大学後援会立誠会の奨学金制度、2025年度に発足した旭川市立大学基金での奨学金への拡充など設けています。
12	3ページ(2) <学部・短期大学部共通> 8) 「保健室体制」…どのような体制でしょうか				○	専従の看護師(学生支援課職員)を配置し、学外カウンセラー・学内の学生相談室委員の教員を配置した学生相談室を設置しています。なお、保健室は大学校舎・短大校舎両方に設置しています。
13	4ページ(3) <経済学部> 3) 「日本語能力検定受験の推進を図る。」…受験率の向上でしょうか			○		中期計画策定時は、日本語能力の習得を目指していましたが、近年、日本語能力の高い留学生の入学も多いことから、カリキュラムの変更を2025年度よりおこない、大学院進学を目指す留学生へアカデミックスキルを養う学術的日本語の科目や、ビジネス用途の日本語などの科目を追加し、現状に則した支援を行っています。
14	4ページ目、5ページ目について質問ですが、ポートフォリオ・システムにはどの程度の項目があり、学生は実際にどの程度これを利用していますか。				○	2023年度よりポートフォリオシステムを刷新しました。学生自身が授業・実習等の目標設定や達成度を記入し、ゼミ担当の教員がコメントを入力し、相互に確認できるようになっています。このポートフォリオシステムは、成長のサポートのツールとして、成長の軌跡やリフレクションの能力を高め、就活時などに自己分析の根拠や実践的なスキルを可視化できるようになっています。
15	質問ですが、12ページの令和8年度～10年度の予算における「受託研究等収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」の金額が、令和5年度～10年度予算における額よりも大きくなった理由は何ですか。				○	受託研究等収入：外部資金の獲得に向けた取組を進めているほか、2025年度から開始した科学技術振興機構の事業が次年度以降も継続することから、一定の受託研究収入を見込んでいます。 寄付金収入：2025年度に「旭川市立大学基金」を創設し、積極的な寄附金募集活動を開始したため寄附金収入の増加を見込んでいます。 補助金収入：2023年度に採択された学部開設に係る補助金にて、次年度以降も交付が決定しているため収入に計上しています。
16	16ページ 令和8年度～令和10年度 資金計画 投資活動による支出が103百万円とされていますが、修繕計画と整合しているでしょうか。					現行の資金計画に計上している「投資活動による支出」については、策定当初、監査法人とも相談の上、固定資産の取得に係る支出のみを対象としておりました。そのため、修繕計画に含まれる大規模修繕分は投資活動に含めておりません。 今回の見直しにおいては、大規模修繕に該当する支出を投資活動に適切に反映させ、修繕計画との整合を図ってまいります。
17	17ページ 短期借入金の限度額 (2) 想定される理由 「事故の発生等により…」とありますが、「事故」とはどのような事が想定されますか。				○	自然災害により建物やインフラ設備が損傷した場合の復旧のための費用、サイバーインシデントなど予見困難な事象を想定しています。また修繕計画にのっとり校舎等の整備を行っています。50年以上の建物も多く老朽化でのインシデントが想定されます。
18	17ページ その他、旭川市の規則で定める業務運営に関する事項 (2) 人事に関する計画 1) 適切な教職員配置 ①今後の業務の複雑化に対応し、優秀な教職員を人事計画に沿って増員する。 この人事計画は、収支予算に反映されているでしょうか。			○		優秀な教職員を増員するための特別な予算等については、次期中期計画への反映を行います。
19	可能であれば卒業後のUターンを希望する学生の窓口管理の一元化を行っていただくと、人手不足に悩む経済界としては非常に助かります。				○	拓殖短期大学には、合同説明会の情報を継続的に提供しています。併せて、旭川市出身者他大生のUターン希望者についても、ハローワークと連携しながら情報提供や声かけを行っており、合同説明会には他大学の学生も参加しています。実績としては、毎年数名程度ですが参加者がいます。今後、他大学のUターン希望の大学生の取りまとめについては、ハローワークや旭川市とも連携しながら、体制の構築を段階的に進めていきたいと考えています。